

ろうさい病院つうしん

病院情報誌 第14号 平成17年2月1日発行

発行所：中部労災病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

急性冠動脈症候群に対する 当院の冠動脈インターベンション治療の 現状と展望



● 循環器科 ● 丸井 伸行 (部長)・植谷 忠之

急性冠動脈症候群（ACS：Acute coronary syndrome）とは冠動脈内に生じた粥腫（プラーク）の破綻とそれに引き続く血管内の血栓形成によって冠動脈の血流が障害されたり、閉塞するといった病態で従来の不安定狭心症、急性心筋梗塞、心臓突然死を包括した概念とされています。

当院では循環器科医が24時間体制で待機しており、ACSの疑われる方に対しては近年のエビデンスをふまえて早期に診断・治療を行うため、積極的に冠動脈造影を行い必要があれば冠動脈インターベンション治療（PCI：Percutaneous coronary intervention）を施行しています。

ACSにおけるインターベンション治療の問題点として血栓や柔らかいプラークが多量に存在する場合、バルーンやステントの拡張により末梢塞栓などの合併症を引き起こしやすい事があげられます。当院ではこのような症例においてもほぼ全例で血管内超音波によるプラーク性状の評価を行い、リスクの高い場合は末梢保護デバイスを併用するなどの対策をとっています。

また状態の安定している方では少しでも治療後の安静や苦痛を減らすために、橈骨動脈からカテーテルを挿入する方法や血管縫合器、止血デバイスを使用しています。これにより術後早期からのリハビリテーションの導入が可能となっています。

当院の昨年210例のPCI施行例のうち30例（14%）がACS症例に対する緊急PCIでしたが、そのうち29例（97%）で再灌流に成功し、全例退院され良好な経過をたどっています。

本年の新病院への移転に伴い、循環器専用フラットパネルシネアンギオ装置を導入し、さらに充実した体制でACSへの治療に臨む予定であります。また当院の特色として代謝内分泌科（糖尿病センター）との連携により再発予防のためのリスクファクター管理に力を注いでおり、ご紹介いただいた方をより安定した状態で早く紹介元にお返しできるような体制を整えています。

今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

循環器科・心臓血管外科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	南木 道生 医師 植谷 忠之 医師	丸井 伸行 部長 南木 道生 医師	松山 克彦 部長 (心臓血管外科) 加藤 真隆 副部長	丸井 伸行 部長 立松 康 医師	加藤 真隆 副部長
午後	植谷 忠之 医師	南木 道生 医師	加藤 真隆 副部長 横井 公宣 医師	丸井 伸行 部長 立松 康 医師	安藤 博彦 医師

股関節疾患の治療

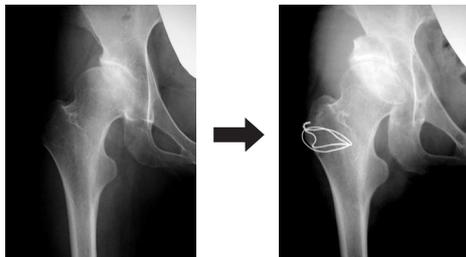
中部労災病院 整形外科副部長 坂野 真士



股関節は最も大きい関節で、何十年も体重を支えて歩行する人間の根幹にかかわる関節です。股関節疾患の治療は、患者様の歩行について何十年という長いスパンを視野に入れて行う必要があります。今回は、当院で行っている股関節の手術治療を紹介します。

●「寛骨臼回転骨切り術 (RAO)」

臼蓋形成不全に対して行う手術で、軟骨が残っている20-50歳が適応です。骨盤の体重を支える面積を広くし、変形性股関節症の進行を遅らせることを目的とします。



RAO術前

RAO術後

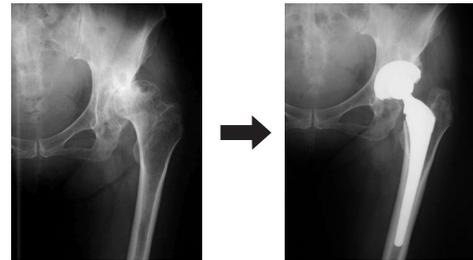
●「彎曲内反骨切り術、大腿骨頭回転骨切り術」

大腿骨頭壊死に行う手術で、骨頭の壊死していない部分(健常部)を体重がかかる部分へ移動し、体重を支えるようにします。骨頭の圧潰防止を目的とします。

●「人工股関節置換術 (THA)」

軟骨がすりへってしまった変形性股関節症、関節リウマチや骨頭が圧潰した大腿骨頭壊死などが適応です。疼痛軽減と歩行改善効果が非常にあり、

旅行へも行けるようになるなど、患者様の満足度はとても高いです。



THA術前

THA術後

●「人工股関節再置換術」

人工股関節置換術後10-20年すると、ポリエチレン摩耗が進行し骨溶解や緩みといった人工股関節障害が発生し、人工関節の入れ換えが必要になることがあります。人工股関節障害は診断、治療方針の決定、そして手術そのものに、非常に多くの知識と技術を要します。骨欠損部は骨移植により骨量を回復する必要があり、中部労災病院では同種骨移植を行うことができる体制を整え、関節チームはすべての症例に対応できるようにしています。

さて、股関節疾患も早期診断、早期治療が重要です。臼蓋形成不全、大腿骨頭壊死は早期に診断すれば、自己の関節を温存する骨切り術で対応することができます。人工股関節障害も早期診断により、部分的な再置換ですみ、全部分を再置換するという大手術を避けることができます。股関節に異常がある患者様、あるいは人工関節が入っているが定期検診を受けていない患者様がいましたら、早めに当科へご相談ください。

整形外科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
新患・再診	伊藤 圭吾 医師	岡 義春 副部長	加藤 文彦副院長	岡 義春 副部長	加藤 文彦副院長
	湯川 泰紹 副部長	坂野 真士副部長	寺島 照雄 医師	伊藤 圭吾 医師	坂野 真士副部長
	堀江 裕美子 医師	安間 英毅 医師	交代制 医師	堀江 裕美子 医師	安間 英毅 医師
	交代制 医師	交代制 医師	交代制 医師	湯川 泰紹 副部長	寺島 照雄 医師

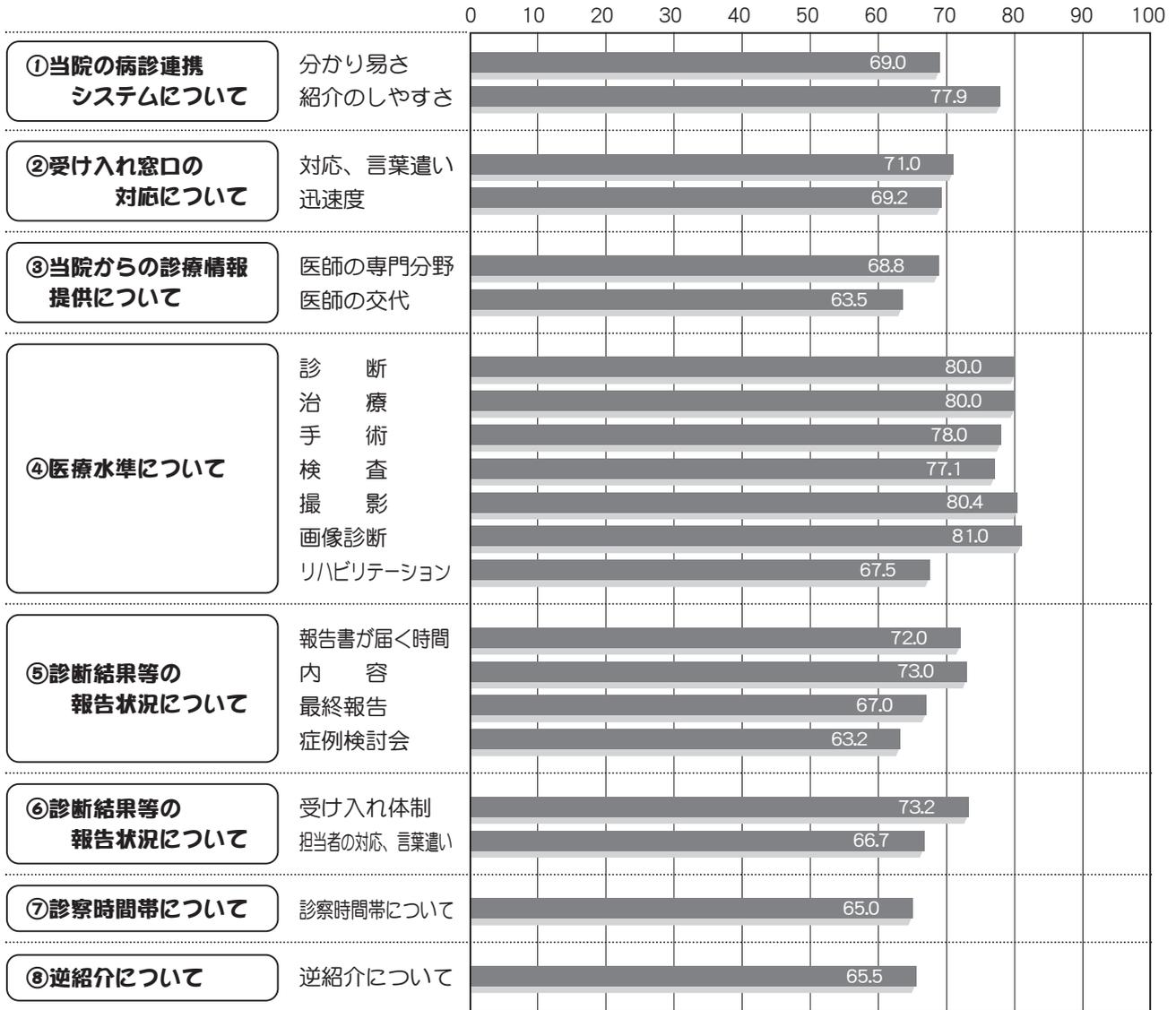
病病・病診連携サービス実態調査の結果報告

No.1

平成16年9月、近隣の医療機関を対象に「病病・病診連携サービス実態調査」を実施いたしました。調査の結果は今後の病院運営に役立てていきたいと考えております。ご多忙の中協力して下さった先生方に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

主な項目についての重視度、満足度は以下のような結果となりました。

《満足度 (%)》



- 調査対象実施月：平成16年9月
- 調査依頼医療機関：67
- 回答件数：33
- 回答方式：1. 非常に満足している
2. 満足している
3. どちらともいえない
4. あまり満足していない
5. 満足していない
6. 利用していない

■ 満足度の計算式

$$\text{満足度} = (\text{「1」の回答件数} \times 100 + \text{「2」の回答件数} \times 75 + \text{「3」の回答件数} \times 50 + \text{「4」の回答件数} \times 25 + \text{「5」の回答件数} \times 0) / \text{全回答数} - (\text{「6」の回答件数} + \text{「無回答」})$$

病病・病診連携サービス実態調査の結果報告

No.2

次に、実態調査においてお寄せいただいたご意見をもとに、医療連携委員会で話し合ったことをご紹介します。

医師の専門分野等がよく分からない・・・

平成16年12月1日より、科別医師診療予定表に医師の専門分野を掲載することと致しました。

また新しく赴任した医師の情報は別途お知らせしていく予定です。

糖尿病教室について

患者さんのみならず、開業医のナースも教育して欲しい

新鮮なご意見です。糖尿病外来にて早速検討させていただきます。

もっと逆紹介して欲しい

まずはホームドクターに帰すことが大切と考えます。ホームドクターが居なければ、登録医の先生に積極的に逆紹介してまいります。

診察時に患者さんと医師が次の医院を選びやすいよう、医療機関の詳細なデータやマップを地域医療連携室で作成し各診療科に配布していく予定です。

電話等の対応が悪い

地域に根ざした病院を目指しながらも、いまだこのようなご指摘をいただくことを遺憾に思います。

きちんとした接遇・マナーができるのが社会人としては当然なはずですが、院内で講習会なども開催しておりますので積極的に参加し、いつでも誰でも気持ちのいい対応をできるよう心がけていきます。

全紹介状に対して返書が欲しい

平成16年11月より、返書督促・管理の徹底に努めております。今後ともよろしくお願ひします。

CT、MRIの予約がなかなか取れない

現在は予約をいただいてから撮影当日まで、かなりの時間を要しておりますが、今後はこの待ち時間を縮小していくよう体制を検討しております。

症例検討会や講演会を

休診日に行って欲しい

実施する曜日や時間については毎回頭を悩ますところですが、対象者全員のご都合がよろしい日程調整は困難と思われる為、当面は現状維持とさせていただきます。

診療科によっては返書が読み辛い

診療情報提供書をパソコンで打ち込めるシステムを検討中です。

☎地域医療連携室 (平日 8:15~19:30)

052-652-5716 (FAX・TEL共用)

052-652-5950 (TEL)

室長：小林 建仁 (副院長)

佐野 隆久 (副院長)

事務担当：河野・金井